

新九郎通信



発行 小田原市栄町 2-13-3 (株) 伊勢治書店 3F ギャラリー新九郎 木下泰徳
メール配信サービスご希望の方は右記アドレスへお申込みを e-mail:kinoshita@iseji.net

我が家の窓から見える酒匂川の土手の『報徳桜』が見ごろを迎え、菜の花満開の栢山の春景色に心がなごみます。満開の桜に彩られた城址公園では、春恒例の「蒲鉾祭り」「おでん祭」「骨董市」で賑わっています。芸術文化創造センターの設計者も決まり、「小田原の名所」がまた新たな賑わいを生んでいく日が楽しみになりました。

新入学、新年度、新生活・・・新たな出会いと希望溢れる4月がスタートしました。おかげさまで新九郎通信も5年目を迎えることができました。皆様に楽しんでいただける情報誌として、新たな気持ちで、スタートしたいと思います。

新九郎 4月の展覧会のご案内

近隣・友の会会員の展覧会情報

	会 期 展覧会名	見どころ
	4/3(水)～8(月) 小田原写真研究会展	会員8名、自然、街、造形等自由な創作の写真展。
	4/12(金)～14(日) 街頭の禅美術展	東泉禅院所蔵の書画による禅文化の展覧会*14日1時半より岸達志住職の講演会
	4/17(水)～22(月) 浩世会日本人形と押し絵展	藤娘、花魁等の日本人形 30体・押絵 40点・つるし飾り 30本
	4/26(金) 新九郎デッサン会	どなたでもお気軽にどうぞ! 18:15-20:45 会費 1500 円 コスチューム、固定ポーズ
	4/24(水)～29(月) 火曜パステル会作品展	花・静物、風景等のパステル画 会員 15 名 賛助出品 高木なえ

会期・展覧会名	会場
4/5(金)～4/7(日) 八十才 感動の一人展	アオキ画廊 2F 0465-22-0825
4/11(木)～4/15(月) 第14回坂田計雄油絵展	アオキ画廊 0465-22-0825
4/24(水)～4/29(月) 第15回 喜楽舎日本画展	アオキ画廊 2F 0465-22-0825
4/17(水)～22(月)喜寿二人展 書:竹市千里子 水彩:藤岡祐二	飛鳥画廊 0465-24-2411
4/3(水)～4/8(月) 二人展	お堀端画廊 0465-23-7819
4/10(火)～4/15(日) 田辺幸子 欧風刺繍教室展	お堀端画廊 0465-23-7819
4/2(火)～4/14(日) 佐分利典彦展	すどう美術館 0465-36-0740
4/2(火)～4/30(火) 大谷英昭水彩画小品展	「むーにゃん」二宮駅前 0463-71-8224
4/5(金)～4/16(火)4/10.11 休廊 住谷重光展-大磯の光と風-	ギャラリーさざれ石 0463-67-9662
3/1(金)～7/21(日) 生誕100年 松田正平展	フロムウインズ 0465-742-1559
3/30(土)～4/6(土) 秦野から東北へ KIZUNA	ギャラリーぜん 0463-83-4031

小田原街なみスケッチ

暮らし・営みが偲ばれる懐かしい街なみを訪ね歩くシリーズ 岡田昌康
第3回「清閑亭」



「街なみ再発見!展」主催のスケッチ会に参加した。小田原城の旧三の丸外側の坂を登って、土塁の斜面に建つ木造建築に辿り着いた。樹々に包まれた数奇屋風の明治建築が、密やかに佇む。コの字状に囲まれた庭の草地には、案内顔の石燈籠が立つ。入口から玄関までは飛び石が敷いてある。母屋は二階建てで、瓦屋根の二階が一階の上にどっしりと乗り、重厚な光景である。一階の屋根は銅葺きで、緑青の色が樹の葉の緑と互いに映え合う。

黒田官兵衛の子孫、黒田長成侯爵の別荘を、今は小田原市が取得し、「清閑亭」として公開している。観光で賑わう平成の街の中で、明治の元勳の別荘が、小田原城と向き合って醸し出す雰囲気は、小田原独特の顔と言えよう。

思うことなど 横井山 泰

子どもの頃から絵を描くのは好きであった。ただ、あまり褒められたことはなかった。ドラゴンクエストのキャラクターは描けなかったし、中学校の美術の評定は10のうち3であった。ところが高校では、好きに描いた絵を褒めてくれた先生との出会いで、その後の人生が進んでいくのである。「好きに楽しんで描いた絵を3にした美術教師」という記憶だけが残っていたのだが・・・



先日、中学の同窓会に出た。ほぼ20年ぶりの再会で、随分長い無沙汰を詫びつつも、会えば頭の中は中学生にタイムスリップしてしまう。3の話になると「お前はブル(美術教師)に何を言われても何度も絵を観せに行っていた。」「ブル(彼は版画作家でもあった)のローラーで100円玉を潰してローラーを壊した。」「ピカソのレプリカに落書きをした」等々。完全に記憶から消えている出来事を聞いた。1つ思い出せば思い出すもので「こういう絵を描きたければ描いてもいいけど俺は評価しないよ」と言われてムキになって毎日観せに行ったら「そのうちウケるかもな」と言われたことや、丸く穴の開いてしまったフェルトを悲しそうに片付ける顔や、足を組む軽業師に躊躇したことを思い出した。絵を描く人同士納得の3であったし、当然の理由もあった訳だ。ごめんなさい。ありがとう。

真鶴町旧岩小学校収蔵庫視察



小田原市の抱える美術事情の一つに「収蔵庫の不足」がある。おだわらミュージアムプロジェクトでは、真鶴町の旧岩小学校が、独立美術協会会員有志の収蔵庫として活用されていることを知り、実際の活用の様子等について視察をさせていただいた。真鶴在住で「真鶴独立岩」の管理責任者をされている独立美術協会会員の出口佳子さんにご案内をいただきながらお話を伺った。

2007年真鶴小学校との統廃合により岩小学校は廃校となり空き校舎となった。その情報を得た独立美術協会では、「真鶴独立岩」という組織団体を作り、2010年より「旧岩小学校」を真鶴町から賃借し、独立美術協会会員の希望者による活用を図っている。

かつての昇降口は、靴箱など備品は撤去され広々としていたが、職員室や教室には当時のままの黒板の文字が残されていて、かつてここが学び舎だったことの誇りが残されていた。1階から3階まで順に見せていただいた。教室は机・椅子等の備品は全て撤去され、各教室には施設がされていて自由な出入りはできないようになっていた。広い床には、建築現場で使う足場が組まれ、湿気や光を避けるように立てかけてあり、作品保管の収蔵庫になっていた。50号～200号の作品が100点は収蔵できる十分なスペースがあった。

収蔵作品は大きいものは200号の大きさがあり、2階以上の部屋には最初は窓から入れていたそうだが、現在は非常階段のドアを高く改修して搬入口とするなど、会で手を加えて活用していた。現在利用会員は18名。空き教室も少しあるが、予約者でほぼ埋まっているとのことだった。また、アトリエとして利用されている部屋もあり、広さと窓が大きく十分な採光のある学校は、アトリエとしても大変良い環境であった。

作品保管の問題となる空調設備はなく、地震、津波等災害により作品が破損した時の町の保証もなく、すべて自己責任という前提のもとでの利用である。現在、使用して3年になるが、時々空気の入替えなどを行っていることもあり、今のところ作品の状態は気になることはないとのことであった。しかし、学校全体を見学していると、雨漏りや、いたんだ床など修理の必要がある箇所もあり、改修費用については、会の負担となるため、徐々にやっていく予定のようだった。

活用に至るまでには、時間を要したようだ。2007年の廃校から町に使用の希望を出すも、活用に至るまでには数年の時間がかかった。耐震性の問題等を理由に許可が下りなかったのだが、町長が変わった折に直接相談をしたところ、「文化的な活用」に大いに理解を示し、今日に至っているのだという。また学校の敷地は借地であるため、家賃収入は町にとってもプラスとなっている。

地域のコミュニティの中心的役割を持っていた学校が、アートと触れ合える文化的な場所として、地域の方にも親しんでもらうため、春にはお花見会やアトリエを開放してのワークショップも開催しているという。また会員のデッサン会や勉強会にも使われているとのことで、地域にとっても「文化の発信地」として、さらに親しまれていく場所になっていくことだろう。

小田原市にとっても、収蔵庫の問題は大きな課題の一つである。顕彰すべき作家の作品の散逸を避けるためにも、「地方文化を守る」ためにも、改めて収蔵庫の確保についてみんなで考えていなくてはという思いを強く持った視察となった。④

真鶴独立 岩小学校プロジェクト3周年記念観覧会

2010年4月に発足した真鶴独立岩小学校プロジェクトが満3年を迎えます。それを記念して**お花見会を開催します**。岩小学校の様子を見ていただくと共に真鶴の春を楽しむイベントです。多くの方のご参加をお待ちしています。

日時：2013年4月6日（土）正午より※雨天の場合は校内
場所：真鶴町岩 702 岩小学校（真鶴駅より徒歩20分）

真鶴独立代表：今井信吾 事務局：吉武研司 会計：出口佳子
連絡問合せ先 tel&fax:0465-68-1445



【近隣ギャラリーの紹介】

かまぼこ板絵ギャラリー



風祭駅の近くにある「鈴廣のかまぼこ博物館」の2階に「かまぼこ板絵ギャラリー」は併設されています。通路上のギャラリーには、かまぼこ板を使った「かまぼこ板絵国際コンクール 小さな美術展」の受賞作品の他、著名な画家、漫画家、イラストレーター等の招待作家の作品が合計約170点。

このコンクールは二年に一度開催されており、1982年に、鈴廣創業120周年の記念事業として「かまぼこ板絵コンクール」としてスタートしたのが始まりです。食べたあとに残るかまぼこ板に、もう一度新たな命を吹き込むというコンセプトで開催し、現在まで続くコンクールへと発展しました。

現在は、審査委員長を務めるイラストレーターの久里洋二の作品の他、第7回の受賞作品の一部と、村上隆、南伸坊、水木しげる等の人気作家の作品が展示されています。作品の展示はおおよそ3ヶ月毎に入れ替えをしているので、何度でも楽しめます。次のコンクールは、来年2014年の春から募集します。



小田原鈴廣 小川典江

三月の事
三月二日、東京国立博物館一四〇周年特別展「飛騨の円空―千光寺とその周辺の足跡を見た。円空は生涯に12万体の仏像を彫ったといわれているが、今回は高山市千光寺所蔵の61体をはじめ、同市所在の円空仏百体が展示されている。以前一九八〇年朝日新聞社主催の「野生の芸術円空展」で見えて以来、円空仏は荒削りだが迫力のある、異形の仏像という印象を持っていた。しかし会場に並んでいる円空仏の多くがニコニコと笑っている。これが大衆に愛される所以か。目と眉は一本の線で表され、鼻・口・あごもさりと削ってできあがりである。法衣を纏った体はごく単純な形である。有名な両面宿禰坐象（りょうめんすくらざそう）は千光寺開山の為に彫られたものであり、相当入念に造られ円空仏の中でも特別なもののようだ。会場は円空さんの仏像を一目見ようという年配の方で溢れ、普段の美術展とは違った雰囲気であった。

円空は即身成仏を目指し窟籠りをし、和歌をよみ、木食と断食を実践し、万有一心の禅観をみがきながら山居し、最後は入定を目指していた遊行僧である。その足跡は岐阜、愛知、関東から東北、北海道にまで及び、各地で庶民の心の安寧を願う仏像を作り、仏道に生涯を捧げて生きた。千光寺周辺の民家や神社・寺院には円空仏が沢山所在し信仰の対象として病気を治したり、また子供たちのおもちゃとしても使われていたり、生活の中に溶け込んで親しまれ、敬われたものとなっているようである。今も信仰心を持って生活の中で円空仏に手を合わせる方たちがいる。やはり時代が生んだ芸術であるのだろう。

円空の作品では秋葉大権現像（今回は出品なし）に魅せられる。その顔は眼を除き、鼻・頬・顎・額から頭髪まで全面ギザギザの皺でおおわれておりまさに異形である。やや斜めを向いたその眼は何を見つめているのだろうか。人間という存在、いや宇宙そのものの不可思議さをみつめているのだろうか。円空仏は簡単に彫られているようでいて、しかし誰にもまねのできないオリジナリティがある。シンプル・素朴だけでなくやはり彫刻としての素晴らしさがあるからだろう。それが江戸時代以来今に続く円空仏の人気の理由だろう。なぜに12万体制成なのかはいまだ謎のようだが、量産をするために年を追うごとに形態はシンプルになり、抽象性を高めていくようである造形的な進化はまさに芸術家の歩みそのものである。

上野公園の桜は満開であった。公園で遊ぶ人々をのんびりと眺めながら、ビールとピザで軽く腹ごしらえをし、桜並木の下をぶらぶらと歩きながら、次の会場「VOCA展」に向かった。④



三月二日、東京国立博物館一四〇周年特別展「飛騨の円空―千光寺とその周辺の足跡を見た。円空は生涯に12万体の仏像を彫ったといわれているが、今回は高山市千光寺所蔵の61体をはじめ、同市所在の円空仏百体が展示されている。以前一九八〇年朝日新聞社主催の「野生の芸術円空展」で見えて以来、円空仏は荒削りだが迫力のある、異形の仏像という印象を持っていた。しかし会場に並んでいる円空仏の多くがニコニコと笑っている。これが大衆に愛される所以か。目と眉は一本の線で表され、鼻・口・あごもさりと削ってできあがりである。法衣を纏った体はごく単純な形である。有名な両面宿禰坐象（りょうめんすくらざそう）は千光寺開山の為に彫られたものであり、相当入念に造られ円空仏の中でも特別なもののようだ。会場は円空さんの仏像を一目見ようという年配の方で溢れ、普段の美術展とは違った雰囲気であった。